

トップの倫理観

企業は様々な「公共財」を始めとし資本、人材、物などを社会から預かり事業を運営します。企業は社会的機関であります。したがって、借り物の公共財をより効率的に運用して、お客や社会のニーズに応えていかなければなりません。しかし、どんな手段を用い

ても利益を上げさえすれば、良い企業という市場経済が支配すれば企業は必ず社会の信頼を失います。いつの時代であってもトップの企業倫理観が社会を構築する基礎です。

武士道

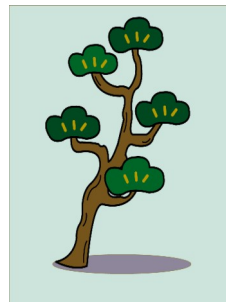
この倫理観「商人道」が信頼という社会の基本構造に絶対欠かせないものです。

日本の倫理観「商人道」が構築された原点は江戸時代までさかのぼり、その基礎には室町時代からの「武士道」があります。経済と倫理は表裏一体です。

商いを通じてより良く生きようとする者、社会にどのような役に立つかの思想です。これは「武士道」に通じます。社会と共生し信頼できる企業自身が、最終的に人間関係だと思ふ。

「はやぶさ」のチームトップの理念が、回りを鼓舞「擬人

化」した機械が、奇跡を呼び込み不可能を可能にした。今も江戸時代に育んだ日本文化が、我々の今日の生活に深く影響を与えています。この文化が、世界の「クール・ジャパン」の原点です。



人生を楽しむべし

自分の好きなように自由に生きた方が良いに決まっている。くよくよするくらいなら山に

不況のおり壁にぶち当たって悩んでいる人は多い。ただ何万年と言う気が遠くなる様な人類の歴史の中で自分が生きていく時間はわずか80年足らずのちっぽけなものである。

出掛けて思う存分汗をかけた方がよい。無心になってラッセルでもした方がよい、人生楽しく生きた人が勝ちである。

YASUHIROのマウンテンワールドから

おしなべて遊べない人に、真の「仕事」が出来ないもの？健康で、遊ぶために仕事をしたくないものではないか・・・。



今年は「躍」

昨年末にも書きましたが事務所の昨年を一字で表せば「耐」でした。年が明け今年は、名実共に「躍」です。ふさわしい会社に変化する。自分が変わり、スタッフ一人々が意識改革に成功すれば確実に変化します。変化しなければこれから存

在自体が問われます。残れないと思っています。それだけに、社会の動きが急激に変化しています。しかし、人の心は中々変わらないものです。信念を持って「熱く燃え」新たな展開を切り開きます。

石橋を叩きわり、氷は薄くして踏み抜く。便利を追求した豊かな社会は結局、いつの間にか動物である我々『人類』に退化をもたらした。今年は野性を取り戻す事務所躍進の一期目。不可能を目指し、無理・無謀に挑戦。圧倒的な努力で『ブランド』を目指す。

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年1月11日(火) NO 163

地域から明るい未来を作ろう